

聴解困難点調査に基づく講義の聴解教材の開発

— 列挙の表現に着目して —

阪上彩子*1・日比伊奈穂*2

Email: sakaue.ayako.ph@cc.nara-edu.ac.jp

*1: 奈良教育大学国際戦略センター

*2: 大阪大学日本語日本文化教育センター

◎Key Words

ウェブ教材, 列挙の表現, 中国語母語話者, 聴解技術

1. はじめに

講義を理解するために必要な談話標識の1つに列挙がある。聴解のために、日本語学習者用の書籍⁽¹⁾や聴解のCan-do記述⁽²⁾にも列挙の表現を手がかりとして、物事の順序を聞きとることが重要であると示されている。しかし、中国語を母語とする学習者はレベルが上級であっても、列挙された項目が聞きとれず、講義の内容が理解できないことがある。本稿の目的は、中国語母語話者の講義における聴解困難点を、特に列挙の表現に焦点をあてて明らかにし、ウェブ教材の開発方法を具体的に紹介することである。

2. 先行研究

本稿と同様に聴解困難点調査を行い、聴解教材の開発方法について検討した研究としては、野田他(2017)がある。野田他(2017)は、初級学習者を対象に、コンビニやカラオケ店の店員による発話の聞きとりについて扱っており⁽³⁾、上級学習者対象の講義の教材開発ではない。

講義聴解については、坂本他(2012)や野田他(2022)などがある。坂本他(2012)は、東京外国語大学留学生日本語教育センターにおける、スタンダードに基づいた教材の開発方法を報告している⁽⁴⁾が、聴解困難点調査は行っていない。野田他(2022)は、対比の構造や仮定条件が含まれている内容を理解する教材について取り上げている⁽⁵⁾が、列挙の表現については言及していない。

野田他(2022)では、今後の課題として、「講義で話される内容と表現」や「学習者が講義を聞く難しさ」の調査を進め、さらにさまざまな教材を開発していく必要がある」と述べられている。本稿で説明する教材も、聴解困難点調査と講義の内容調査の研究結果をもとに、具体的な聴解技術を示す聴解教材を作成する。3.で聴解困難点調査について、4.で講義の実態調査について、5.で聴解技術の抽出について述べる。

3. 聴解困難点調査

聴解困難点の調査では、N1相当の中国語を母語とする日本語学習者15名の発話データを使用した。

3.1 調査方法

調査方法は以下のとおりである。

- (1) 調査協力者はインターネットで公開されている大学のオープンコースウェアの講義映像を視聴する。

- (2) その際、調査協力者は映像を止めて、聞いた内容や推測したこと、わからないことを調査協力者の母語で話す。
- (3) 調査者は調査協力者の母語で話されている内容について必要に応じて質問する。

このようにして実施した調査によって得られたデータのうち、列挙の表現が出現した箇所を抽出し、分析対象とした。

なお、このデータの一部は、野田他による「日本語非母語話者の聴解コーパス」として公開されている。この論文で取り上げる例のうち、出典の最初に「L-CH0039」といった番号が書かれているものは、「日本語非母語話者の聴解コーパス」に掲載済みのものである。

3.2 調査結果

学習者が列挙の表現において間違えた例は2種類に分類できる。第1に、数詞を聞きとれなかった例であり、第2に、列挙の表現が聞きとれなかったために列挙項目の内容が把握できなかった例である。

3.2.1 数詞を聞きとれない例

数詞、特に和語の数詞を聞きとれていない代表例を表1に示す。

表1 数詞を聞きとれていない例

講義	講師の発話	学習者の理解
心理学	3つぐらいやります	この授業は2つの内容があります
教育学	これ2015年、来年までに実現しましょうということで8つの目標を立ててきた目標ですが	2015年、来年までに実現しましょうということで、4つの目標を立てました
建築学	彼は近代建築の5原則という、まあそういった、宣言をして、	建築、近代の建築の宣言をしました

今回の調査では、数詞のうち、和語が聞きとれないことが多かった。

3.2.2 列挙の表現が聞きとれない例

列挙の表現が聞きとれなかったために、列挙された項

目の内容がわからなかった例を紹介する。

心理学の講義では、講師が3つの例を挙げて説明しており、列挙の表現として「まず」「2つ目が」「3つ目が」を使用している。しかし、(4)が示すとおり、ある学習者は「まず」を聞くことができず、1点目の内容を理解していなかった。そのため、講師は説明を省略したのだと判断している。

- (4) 他好像是，大概是省略了关于第一点的说明。(たぶん1点目の説明を省略しました。) (L-CH0039)

同じ講義で、ほかの学習者は、「3つ目が」を「3つ」と理解し、3点のポイントの内容を理解していなかった。

文学の講義では、スライド上に、1, 2, 3と番号を付け、ノーベル受賞が予想外だった理由が箇条書きで提示されていた。しかし、講師は、理由の数について明示せず、(5)のように、列挙の表現を使わず、「それから」を用いて説明を進めている。

- (5) それからあとはまあ地域色の豊かな文学っていうふうに書きましたけれども、(中略) それからあとはこの売れているかどうかって言ったらですよ、実はカズオ・イシグロはまあご存知かも知れませんがかなり作品は売れていますよね。(文学)

講義の中で、(5)の発話は、理由の3点目と4点目にあたるが、学習者は話題が理由の説明であるとは理解しているものの、何点目について話しているかを理解していなかった。

- (6) 好像把话题，三个话题是联系起来的感覺。(3つの話題をこう全部つなぎ合わせたような感じがします。)

3.2.3 列挙されている項目が聞きとれない例

列挙の表現は聞きとれているものの、列挙されている項目が聞きとれないために、講義の内容を把握できない例を紹介する。

環境工学の講義では、講師は(7)のように、災害直後にトイレの話をメディアでしにくい理由について、「トイレがないという言葉がないこと」、「メディアでトイレについて話しにくいこと」の2点あげている。

- (7) なかなかトイレの話をしてくれない。これはあの、2つ理由があるそうです。1つは例えば水道が出ませんっていう時に 日本語でなんと言われますか。(中略) でこれが1つの理由です。言葉がない。もう1つは、あのテレビを見てますとニュースをやったり、(中略) この2つがあってなかなかトイレというのが災害が起こった時に前面に出てきません。ただ我慢できません。(環境工学)

この講義について、学習者は「トイレを我慢できない理由」が説明されていると推測した。また、2つの理由として「1つ目は歴史的な理由」「2つ目はニュースでトイレの話はしにくいから」と述べており、はじめの「トイレを我慢できない理由」の説明とは一致していなかった。その

ため、学習者は、「トイレを使えないという言葉がない理由」について説明されていたと解釈した。

また、心理学の講義では、講義の内容を3つ提示しているが、(8)のとおり、1つ目と2つ目をまとめて聞いており、(9)に示すとおり、2つ目の内容のみを理解している。

- (8) まず心という言葉について、これについて考えてみよう。で、2つ目が、あの、心について考えるってのは、実は、どんな問題を含むのかですね。(心理学)
(9) 嗯，说到心里，心理问题，要包括到哪些方面呢。(うーん，心理，心理の問題について，どんな方面まで含むのでしょうか。)(L-CH0040)

そして、講義で提示された3つの内容は黒板にも書かれていたが、学習者は(8)の音声内容と黒板に書かれている項目の対応関係を理解できていなかった。

以上の例より、(10)から(12)の聴解困難点が明らかになった。

- (10) 和語の数詞を適切に理解していない
(11) 列挙の表現を適切に理解していない
(12) 列挙されている項目を適切に理解していない

4. 講義内容の調査

調査に用いた講義は、理系・文系を問わず一般教養で履修される可能性がある著作権に関するものにした。また、法律の説明を含むため、列挙の表現を比較的多用しているためである。

4.1 調査方法

オンラインで公開されている講義10本のうち、列挙の表現が使用されている箇所を抽出した。

4.2 調査結果

講義中に出現した列挙の表現は表2に示すとおりである。表2に記載されているもの以外に、「4つ」「5つ」などの数詞が「8つ」まで使用されていたが、出現数は少ないため表には含めていない。

表2 講義中に使用された列挙の表現

列挙の表現	出現数
まず	125
次に	30
それから	155
1つは	26
1つ目	15
1番目	7
2つ	70
2番目	13
もう1つ	45
3つ	29
3番目	4

調査により、「まず」「それから」が特に多く使用されていることが明らかになった。また、「2つ」や「3つ」など

の和語の数詞は、「2 つ目は」のように列挙の順序を示す用法のほかに、「理由は 2 つあります」「例外は 5 つあります」のように、提示する項目の総数を述べる用法としても用いられていた。

例が 2 つの場合には、「もう 1 つ」という表現もよく使われている。

実際に列挙の表現が使われた具体的な箇所として、(13)から(17)のような例が挙げられる。

- (13) 著作物にあたるものの例
- (14) 著作権が適用されない例
- (15) 引用の条件
- (16) 授業での利用の条件
- (17) 美術の著作物の利用の条件

5. 聴解技術の抽出

3. の聴解困難点調査や 4. の講義内容の調査結果をもとに、著作権の講義を聞きとる際に、何に注目して何を手がかりに聞けばよいかという聴解技術を抽出した。その結果、次の(18)から(20)の聴解技術を抽出した。

- (18) 具体的な条件や例の数を聞きとる
- (19) 条件や例をいくつ説明したかを聞きとる
- (20) 何番目かに言っている条件や例を聞きとる

5.1 で(18)について、5.2 で(19)について、5.3 で(20)について述べる。

5.1 具体的な条件や例の数を聞きとる

この聴解技術を説明するために、(21)のように和語の数詞を用いた表現を提示し、その音声を確認できる解説ページを作成した。

- (21) 次のような表現から、複数の具体的な条件や例をこれからいくつ説明するかを聞きとります。

- 4 つの条件
- 3 つの例

また、(22)のように、実際に講義において、和語の数詞を用いて条件を提示している例の音声も掲載する。

- (22) ■ 次の 7 つの条件をすべて満たした場合は、許可なく使っても大丈夫です。

さらに、音声を聞いて具体的な条件や例をいくつ説明しているかを聞きとるための練習問題を作成した。

5.2 条件や例をいくつ説明したかを聞きとる

この聴解技術を説明するために、(23)のように著作権講義で頻度が高く用いられた列挙表現を提示し、その音声を確認できる解説ページを作成した。

- (23) 次のような表現から、1 つ目の条件や例を説明していることを聞きとります。

- まず
- 1 つ

■ 1 番目

また、これらの列挙表現を聞いて条件や例をいくつ説明しているかを聞きとる練習問題を作成した。

5.3 何番目かに言っている条件や例を聞きとる

この聴解技術を説明するために、(24)のように和語の数詞や列挙表現を提示し、その音声を確認できる解説ページを作成した。

- (24) 「1 つ目」や「次に」から何番目かに言っている条件や例を聞きとります。
条件や例は「1 つ目」や「次に」の後に言われます。

また、音声を聞いて列挙表現を用いた説明内容を理解しているかどうかを確認する練習問題も作成した。

6. 教材開発

6.1 教材の設計

教材を開発するにあたり、まずは設計を行った。既存の WEB 聴解教材システムは公開されており、本教材はそのシステムを利用して開発された。教材は、次の(25)から(28)の各項目がそれぞれ 1 ページずつで構成されている。

- (25) レッスンタイトル・目標・状況・スキル一覧
- (26) スキル解説
- (27) スキルの練習（音声を聞いて 2 つの選択肢から正解を選ぶ問題）
- (28) 不正解解説

6.2 教材の開発

「講義の聴解」であることを想定し、講師に相当する 30 歳以上 60 歳以下のさまざまな男女の音声を用意した。

本教材は「日本語を聞きたい!」のサイトにて、次のページで公開している。

<http://www.nihongo-tai.com/japanese/kiku/index.php>

6.2.1 レッスンタイトル・目標・状況・スキル一覧

レッスンタイトル、目標、状況は図 1 に示すとおりである。

複数の具体的な項目を挙げて説明していることを聞きとる	
目標	著作権についての講義で複数の具体的な項目を挙げて説明していることを聞きとれるようになります。
状況	大学の授業で、著作権についての講義を聞いています。複数の具体的な項目を挙げて説明していることを聞きとります。

図 1 レッスンタイトル・目標・状況

「列挙」という文法用語は、言語教育の専門家以外には理解しがたいことがあるため、「複数の具体的な項目を挙げる」という表現を用いることとした。

スキルの一覧は図2に示す。

スキル1	「正当な」や「名義」を覚える
スキル2	「引用する」や「公表する」を覚える
スキル3	著作権について説明していることを聞きとる
スキル4	具体的な条件や例の数を読みとる
スキル5	条件や例をいくつか説明したかを聞きとる
スキル6	何番目の具体的な条件や例を読みとる

図2 教材のスキル一覧

(18)から(20)の聴解技術をもとに、スキル4から6の項目をたてた。

また、列挙された項目の内容を聞きとるためには、著作権の講義で使われる難易度の高い語彙を聞きとる必要がある。そこで、列挙表現を扱う練習問題の前に、関連語彙に慣れる練習問題を配置した。それがスキル1から3である。

6.2.2 スキル解説

スキル解説は、聴解技術を具体的に音声を入れて説明したものである。図3は、スキル4の解説を示している。

【スキル4】具体的な条件や例の数を読みとる

次のような表現から、複数の具体的な条件や例をこれからいくつ説明するかを聞きとります。

▶

- 4つの条件（対訳）
- 3つの例（対訳）

▶

- 条件が8つ（対訳）
- 問題5点（対訳）

次の音声では、これから7つの条件について具体的に説明します。

▶

次の7つの条件をすべて満たした場合は、許可なく使っても大丈夫です。（対訳）

練習を始める

図3 教材のスキル4の解説

5.1の(21),(22)の聴解技術を教材化している。

6.2.3 スキルの練習

練習問題は2択問題で、間違えた場合、不正解解説が読めるようになっている。和語の数詞は、初級語彙であり、上級学習者には簡単であるため、練習をしたくない学習者は、右下のボタンでスキップすることができる。

【技能4】听明白具体的条件和例子数量

【练习1】接下来要讲几个具体的条件或例子呢？

▶

1

2

3个

4个

前往下一个技能

図4 教材のスキル4の練習の簡体字翻訳

本教材は、聞きとりに集中するために、中国語など多言語対応である。図4は、スキルの練習の中国語簡体字翻訳を示している。

7. おわりに

以上、中国語母語話者の講義における聴解困難点調査を行い、特に列挙の表現に焦点をあてて困難点を明らかにし、それをもとにしたウェブ教材の開発方法を具体的に紹介した。

本研究は、上級学習者の講義聴解支援において、列挙表現の理解が重要であることを示し、それに対応した教材開発の一例を提示するものである。今後は、本教材の学習効果の検証を行うとともに、他の母語話者や他分野の講義への応用も視野に入れていきたい。

謝辞

この論文は、JSPS 科研費 22H00669 の研究成果である。

参考文献

- (1) 中村かおり, 福島佐知, 友松悦子: “新完全マスター聴解日本語能力試験 N2”, スリーエーネットワーク (2011).
- (2) 東京外国語大学「JLPTUFS アカデミック日本語 Can-do リスト」 <https://www.tufs.ac.jp/institutions/jlc/download.html> 2025.06.12 参照
- (3) 野田尚史, 阪上彩子, 中尾有岐, 太原ゆか: “実生活に役立つ初級聴解ウェブ教材の作成”, the 7th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching & Learning Japanese Proceedings (CASTEL/J 2017), pp.30-39 (2017).
- (4) 坂本恵, 中村則子, 大木理恵, 田代ひとみ: “アカデミック・ジャパニーズに対応した聴解教材 —聴解問題作成プロジェクトの成果—”, 東京外国語大学留学生日本語教育センター論集, 38号, pp.183-196 (2012).
- (5) 野田尚史, 中尾有岐, 萩原章子: “講義を聞く教材の作成”, 野田尚史, 中尾有岐編著, 日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成, ひつじ書房, pp.147-165 (2022).

調査資料

環境工学: “環境工学の挑戦〜生命 (いのち) を衛 (まも) る水とトイレの話をしよう〜” 清水芳久, 京都大学, 2018. [<https://youtu.be/J7qivnM4JIE>]

教育学: “「持続可能な開発のための教育 (ESD)」と平和な国際社会の実現」—公開講座「恵み」2014”, 北村友人, 東大TV, 2016. [<https://youtu.be/inPXOA8Za2M>]

建築学: “たてものの配置学①” 松岡聡, 近畿大学, 2015. [<https://youtu.be/yamVtMCccGM>]

心理学: “心理学基礎論 I”, 道又爾, 上智大学 OCW, 2012. [https://youtu.be/SjfwgJrRG_A]

文学: “カズオ・イシグロはなぜノーベル賞を取ったのか?”, 武田将明, 東大TV, 2020. [<https://youtu.be/RnsE2ZxA7HU>]

野田尚史 (他): “日本語非母語話者の聴解コーパス”, 2020-. [<http://www.nodahisashi.org/jslrikai/choukai/>]

野田尚史 (他): “ウェブ版日本語聴解教材 日本語を聞きたい!”, 2017-. [<https://www.nihongo-tai.com/japanese/kiku/>]

いずれも 2025 年 6 月 12 日に閲覧